

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200052		
法人名	社会福祉法人 みやぎ会		
事業所名	グループホーム きたかみ		
所在地	石巻市北上町橋浦字大須234		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度に引き続き、外出支援に力を力を入れております。全員での外出や、個人の要望に合わせた外出をその都度対応出来る様努めております。震災後より東京の学生ボランティアと交流を続けておりますが、地域密着サービスとして、地元の学生ボランティアとの交流を深めたいと思い、今年度より北上中学校の学生ボランティアの方と交流をはかっております。10月の芋煮会に参加していただき、利用者様・学生ボランティア様どちらも表情良く楽しい時間を過ごす事ができました。また、御家族様にも案内を出し2組の家族様に出席して頂きました。家族様を招待しての行事は初めてでしたが、家族様とも充実した時間を過ごす事ができ喜ばれる様子がみられました。今後も家族様・ボランティアとの交流を深めていきたいとおもいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部は八戸市にあり、青森・岩手・宮城・福島で介護事業を行っている。ホームに隣接し、特養、デイサービスがあり、今年4月に近隣に特養はしうら(100床)を開設した。グループホームから新設の特養に移った方もいる。細やかなカンファレンスを行い、職員間で情報共有に努め、ホームに馴染むよう、より多く寄り添いなどの配慮をしたことで、落ち着いた生活に移行できた。近隣の方が入居したことが、地域の方との交流が盛んになるきっかけになった。また昨年に引き続き外出支援にも力を入れ、利用者の生活の意欲へとつながった。趣味の野菜つくりを継続する為に家庭菜園をつくるなど、本人本位の支援に努めている。10月には家族や学生ボランティアを招いて芋煮会を開催した。震災の傷跡が残っている地区ではあるが職員と利用者が穏やかに暮らしていることがうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHきたかみ ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念・ユニット理念を共有し毎日のケアで実践している。	「『その人らしく』をモットーに、安心、満足のサービスを提供いたします。」の理念を掲げ、皆が見える場所に掲示し、朝の申し送り時に確認して、日常の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近所の住宅へ行事のチラシを配布に行ったり、支所・診療所などへも一緒に同行して頂き地元住民との交流を支援している。	近隣の方が入居したことで、散歩していると声がかかり、面会も多くなった。行事のチラシ配り、おやつ購入に近くのスーパーに出かけるなど、地域の方々との交流が盛んになった。隣接している特養やデイサービスの利用者と交流できるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、委員の方より質問がある事もあり、その際少しでも理解していただける様返答している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より畑のよい育て方や、市職員の方より制度について詳しくお話を頂けた。今年度より、地元の方2名を委員に増やし、地域交流に勤めている。	奇数月に、市職員、地域包括職員、区長、保育所長、傾聴ボランティア、家族、職員で開催している。行事、事業所の状況、利用者の状態を報告している。委員から地域の行事などの情報提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続き等でわからない事があった時など、問い合わせ行い提出物などの不備がない様に努めている。市の職員も親切に対応して下さっている。	市職員が運営推進会議に毎回参加し、事業所の状況を把握している。生活保護の利用者について、保護課の担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体としても身体拘束をしないケアを徹底している。離設の危険性がある方、体動が多い方も利用しており職員の負担も多くみられるが、本人様の立場になり拘束をしないという方針で日々取り組んでいる。	法人内に身体拘束廃止委員会があり、研修も行われている。一人ひとりの立場に立って、何が身体拘束になるか、どんなことがあっても拘束はしない姿勢をもつように話し合い、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	皮膚トラブル(内出血など)が確認された際は、原因を職員で話し合い、介助方法等を検討している。虐待の行為はなし。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度手続きを行っている利用者様がいる。市職員より連絡あり、職員も始めての事である為、市職員へその都度確認しながら、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に対し、安心して家族様をお願いしただけの様、ひとつひとつ丁寧に、理解・納得されているか確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望が聞かれた際は、職員へ申し送り迅速に対応するようにしている。	面会の際や電話で意見要望を聞き、記録を取り、必要に応じ検討している。おやつのお買物、畑仕事がしたいなどの要望があり、実現できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議で、職員全体で話し合う機会を設けている。会議時以外にも、その都度職員の意見を聞いている。	施設長と年1回面談の機会がある。定期的な会議時や、申し送り時にも意見を聞いている。昨年からの買い物外出を継続したり、行事活動ができるよう職員の意見でスケジュールを調整した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの意向・家庭環境等を把握し、その方に合わせた無理のないシフト作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、2名が長期間にわたり外部研修を受けている。内部研修には、出来る限り多くの職員が出席する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の管理者部会に出席している。他事業所の取り組みを知ることができ、良い刺激になっている。実際に事業所へ訪問させて頂き、交流もはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らせる場所であることを認識していただける様、コミュニケーションの際、表情・傾聴の姿勢に注意し話しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり傾聴し、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の思いを聞き取り、見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に召し上がる、洗濯物や調理、買出し等を一緒に行う事で共同生活を楽しんでいただいていると感じる。その際は感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、状況報告している。居室でゆっくりと過ごせる様対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話時、その方の地元の話題に触れる様にしている。隣接している特養に知り合いの方が利用されており、面会の支援をおこなっている。	入居前から通っていたかかりつけ医受診の継続、長年お世話になっていた時計屋さんとの交流の支援を行っている。近隣の方が入居したので、近所の方々の出入りが多くなっている。年末年始に外泊できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル発生の可能性もあり、職員が間に入り大きなトラブルに繋がらない様注意している。自らの発言が少ない方には職員から積極的に話しかける様対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養へ入居された方がおり、特養へ訪問した際は面会している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の聞き取りの際、本人様の思いをしっかり傾聴、家族様からも生活歴等についても詳しく伺っている。	入居時に、本人、家族から思いや意向を把握し「私の暮らし方シート」で情報をまとめている。日々の会話やしぐさ、表情などからも汲み取るようにしている。畑仕事が好きで利用者は、地域の方の応援を受けながら野菜作りを楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も、今までの暮らしが継続できる様に対応している。情報を職員へ申し送り、統一したケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、生活記録で日々の状態を職員全体で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にモニタリングを行っている。職員の意見も共有しながら計画作成している。	ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、3ヶ月に1回見直しを行っている。体調変化などがあつた利用者はその都度、家族、利用者で話し合い見直している。面会時または郵送にて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前年度、記録様式を変更。記入欄を増やしたことで、情報を共有しやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度対応しないと、不穩に繋がる場合もあるため、柔軟に対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にある保健センターに出向き、傾聴ボランティアの方との交流の支援、地元の商店に買い物支援等で地域との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、状況を詳しくDrへ報告している。急な体調変化にも、迅速に対応する様になっている。	かかりつけ医は近くの診療所で、通院あるいは訪問診療を受けている。歯科診療を往診で受けることが出来る。家族付き添いの通院の場合はノートに状態を記入し医師に繋いでいる。夜間緊急の場合、隣接の特養の看護師に相談できる連携体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養看護職員の協力を得ている。介護員の視点からでは判断しきれない場合など、相談し助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居中の経過を報告している。入院中の経過についても、病院とこまめに連絡取り本人様の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった際の説明を入居時説明している。文書での詳細を現在作成中。GHでの対応が困難になった際は、医療機関等へつなぐ支援をしている。	ホームでの対応が困難になった際は、特養か医療機関へ繋ぐこととしており、看取り支援体制はとっていない。入居時に説明はしているが文書化されていない。現在作成中である。	重度化や終末期の対応について説明する場合の書類の整備を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受けている。今年度、受講終了している。その他、内部研修として勉強会を実施したいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の合同(特養)避難訓練実施している。GH単独の訓練も実施している。10月に消防立会いの訓練を行った。	避難訓練は隣接の特養と合同で年2回、10月にはグループホーム単独で消防署立ち合いのもと実施した。その際、災害協力隊(地元大須地区)の協力で避難訓練とともに消火設備の点検を行った。その他感染症対策として、研修会も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際、訪室する理由を本人様へ伝え不信感を与えない様に注意している。トイレ誘導など排泄に関しては羞恥心に配慮し、声がけ・介助行っている。	新しく入居した方には、その人に合わせた声がけや対応ができるように、情報を共有しながら支援している。プライバシー確保の為の研修会として外部講師を招き、人権擁護についての研修会が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単にわかりやすい言葉で会話し、自己決定できる様促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体探・レクにはなるべく参加して頂くようにしている。その他の時間は1人1人自由に過ごされている。自分から意欲がない方などは、状況に応じて散歩などの声がけをし、無理のない範囲で活動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、確認している。介助が必要な方は職員が対応している。外出の際は、おしゃれな服を着ていただくよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好き嫌いを把握し提供している。女性の利用者様には調理・食器拭きなど行っていただいている。	献立は食べたいものを聞きながら、職員と利用者で考え調理している。一人ひとりの出来ることを把握し、準備、片付けに参加してもらっている。年3～4回は外食をしている。食事量、体重の変化を見ながら医師にも相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方には、適量で提供している。食事量・水分量は毎日チェックしている。その方に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアできている。口腔内にトラブルみられた際は、歯科往診・受診にて対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方、声かけが必要な方それぞれに対応。なるべく失禁がなく、トイレでの排泄が出来る様に時間など把握し対応している。	排泄チェック表を活用し、トイレで排泄ができるよう、声かけ、誘導している。便秘対策として野菜を多く取り入れる、乳製品を摂るなど一人ひとり対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日提供している。便秘がひどい方は主治医へ相談、内服薬でも対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴対応している。その日より気分が乗らない際は時間をずらしたり翌日に変更する等して対応している。	今年度から、月、水、金を入浴日に決めたと、入りたくないという人には次の日に入ってもらったり、足浴に変更する等臨機応変に対応している。好みのシャンプーを使っている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りやすい居室環境に配慮している。日中の活動を多めにし、夜間の良眠を促す様対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方箋を綴じ、職員全員が内容を把握できるようにしている。薬に変更があった際は、口頭と記録にて確実に申し送りしている。薬作成について、2重チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、塗り絵、食器拭きなどそれぞれ行われている。散歩や外出支援にて気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不足食材の購入と一緒に外出、その他個人的に欲しい物の訴えがみられた際は外出支援にて対応している。	昨年度に引き続き、買い物支援に力を入れていることから、日常の食材の買い出し、おやつ購入でスーパーや道の駅に出かけている。隣接の特養やデイサービスに散歩しながら出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていないと不安になる方に対しては、本人様に保管していただいている。買い物の際も手持ちの現金で支払う事で満足される様子見られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用方法がわからなくなる方がおり、その都度対応している。携帯電話にて自由に家族様とお話されている。ご自分で日記を書く様子もあり。家族様への年賀状作りも行っている。今年も行う予定。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾り、季節感を感じられる環境作りをしている。	リビングは天井が高く明るく、大きな窓からは田園風景が広がり、落ち着いた雰囲気を楽しむことができる。壁には被災地支援で送られてきた子供の着物や、地元高校生が書いたという書道の作品がかけられ、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の居室を有効に使用されている。座席に関しては利用者同士ぶつかってしまう事もある為、状況に合わせて席替えしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・思い出の写真を飾る方が多くみられる。衣装ケースやテレビ等を持ち込むなど、使い慣れた物を設置され、安心して過ごしていると感じる。	部屋は使い慣れたタンスやテレビを持ち込み、一人ひとり好みの空間になっている。家族や思い出の写真、仏画などが飾られている。利用者と職員が、一緒に片付けを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる箇所に手摺りを設置、危険箇所をチェックし、利用者様が安全に生活できる様工夫している。		